名古屋市南区柴田・白水町を歩く

昨日レポートした『伊勢湾台風を闘った人びと 九月の祈り』を読んで、猛暑のなか白水小学校・柴田小学校あたりを歩いた。

名鉄常滑線の柴田駅で降りて、まずは天白川の堤防まで歩いた。写真上左は堤防から名古屋港の方を撮ったものだ。

川幅が広く、水かさも多いのが印象的だ。伊勢湾台風では、この堤防が決壊した。川より低い住宅地に大量の水が流れ込んで、市内で最大規模の犠牲者を出し、なかなか水も引かなかった。

写真上右は白水小学校の校庭の一角に立つ、伊勢湾台風の悲劇を伝える「友情の碑」。碑の台座上までも水の深さがあったという。

白水小学校から柴田小学校(伊勢湾台風当時は白水小学校・柴田分校)に向かう。広い通りの交差点には、「ここの地盤は海抜マイナス 0.3m」と表示されていた。あらためて、この地域の災害脆弱性を考えさせられた。写真下は柴田小学校の校庭と通用門である。2 階建ての校舎などが見える。

通用門には「津波避難ビル入口」の掲示があった。台風だけでなく、南海トラフ巨大地震、大津波にも備えなくてはならない。海抜ゼロメートル地帯の学校は、地域住民の避難所として大丈夫なのだろうか。学校南 600 メートルには天白川が流れている。

名古屋市立白水小学校の中村邦治校長は、つぎの一文を寄せている。

〈それにしても学校さえ自信のもてる堅固なコンクリート構造であれば、平素から保護者との話し合いで何とか方法が立つように思える。むしろ保護者をも招き寄せることができるのではなかろうか。

地震・火災に対するそなえも無ければならぬ。平均海面より低くて堤防で守られている土地ではいちばん水を心配せねばならぬ。

平素は安心して子供達を教育し護り通す場として、また万一の場合には地元の人々が安心して頼れる避難場所として、学校はぜひとも堅固なコンクリート構造に改築されることを望んで止まない。

--- 堤防はあくまでも堅固にされなければならぬ。もしここで諸施設・設備が改善されねば殉難者に対して申し訳の無いことである〉(『伊勢湾台風誌』収録。抜粋)

(2016 年 9 月 24 日)